園だより９月

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください。
詩編 25 編 4 節

年猛暑、豪雨、コロナ禍の加速。緊急事態宣言の延長、自粛、自粛の８月が終わろうとしています。でもやっぱり夏休み！幼稚園では保護者の方々のご協力により、今年はプール開放が実施されました。猛暑日に遊びに来た子どもたちの楽しげな声、コロナ禍前の夏休みのようでどこかホッとしていました。

また、コロナ禍の中開催されたオリンピック。様々課題もあり、それぞれに意見の違いは有るかと思いますが、オリンピックに出場するために何年も努力を重ね、開催を望み精一杯力を発揮している人々にとっては開催されてよかった、と選手の活躍をテレビで応援しながら思いました。どの競技にも感動がありました。そしてその感動は私の心を揺り動かし、想いを廻らす機会でありました。結果を出せた選手、出せなかった選手、様々でしたが、結果が全てではなく、多くの選手の方々がインタビューで発した「感謝」「幸せ」「楽しんだ」の言葉に喜びを感じました。また、ソマリヤ難民の二人の選手がそれぞれにオランダとベルギーから出場し、最後の直線コースでオランダの選手が後ろを振り向きながら４番目を走っていたベルギーの選手を何度も手招きし、苦しい中それに答えて順位を上げゴールした男子マラソンのエピソード。国の内情に翻弄されながらもそれぞれに力を蓄え出場したオリンピックであったと思います。全世界から集まって開催された平和の祭典だからこそ、事情を背負った選手の方々のエネルギーの尊さが伝えられ、大切なメッセージを受け取れたように思います。今開催されているパラリンピックからもきっと沢山の感動が受け取れることと思います。楽しみです。そして応援をしながら最も尊いと思ったことは、どの選手の方々もそれぞれの「今」に喜びを持って集中し、表現している姿でした。そこに重なる私の思いは、どの様な状況であっても、子どもたちもそれぞれの「今」を大切に喜んで過ごして欲しい、共に過ごしたいという思いでした。

１週間ほどスタートは延びますが２学期は始まります。コロナ禍に対して更なる自己防衛の徹底が必要です。けれども、子どもたちの「今」の成長には変わらない想いを持って今学期も過ごして参りたいと切に願います。保護者の皆様には状況に沿ってご理解とご協力をお願い致します。子どもたちの育みのために、よろしくお願い致します。

園長　駿河　幸子